

## 都市部における緊急輸送道路の無電柱化による地震に強い基盤整備（重点）（防災・安全）

### 群馬県の現状

群馬県では、災害時における道路ネットワークの信頼性向上を目的として、緊急輸送道路全線の無電柱化を目指している。

### 県民の声

- ・災害時に道を塞がないようにしてほしい
- ・すっきりとした景観にしてほしい
- ・車道の幅が狭いので広くしてほしい
- ・通学児童や歩行者が危険にさらされないように歩道を設置してほしい

### 課題

災害時の円滑な救援活動のため、電柱倒壊による道路閉塞影響を勘案した基盤整備を推進する必要がある。

### 目的

都市部において、緊急輸送道路の拡幅整備に併せて電柱地中化を行うことにより、地震に強い基盤整備に寄与する。

### 事業の指標

指標：都市部の緊急輸送道路で事業化された路線延長(4.36km)のうち、無電柱化が完了した道路延長の割合

$\Sigma(\text{無電柱化が完了した路線延長}) / (\text{都市部の緊急輸送道路で事業化された路線延長}(4.36\text{km}))$

(単位：%)

### 成果と達成度報告

指標：都市部の緊急輸送道路で事業化された路線延長(4.36km)のうち、無電柱化が完了した道路延長の割合

現況：0%(H29) ⇒ 最終目標：58%(R3)

⇒ 最終実績：15%(R3)

・3路線のうち、1路線(笛木通り線)が完成し、残り2路線(南北中央幹線・赤城山線)は用地買収の遅れにより、現在事業実施中。

※本整備計画の予算執行は平成30年度まで(以降、個別支援交付金(令和元年度)や補助事業等(令和2年度～)に移行して実施)

### 今後の方針

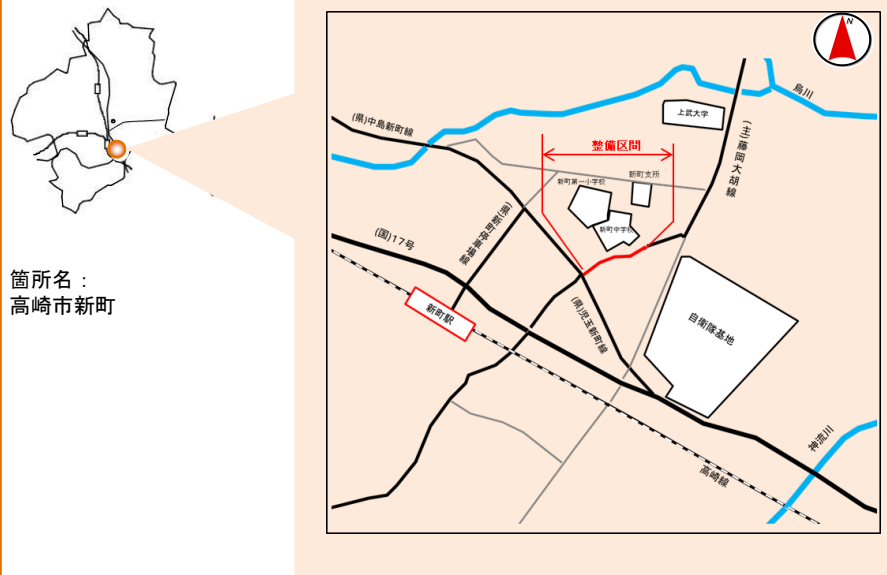
南北中央幹線・赤城山線については、無電柱化推進計画補助事業等に移行し、引き続き無電柱化を推進していく。

# 都市部における緊急輸送道路の無電柱化による地震に強い基盤整備（重点）（防災・安全）

## 整備効果事例

### 事例①（都） 笹木通り線

#### ■ 位置図



箇所名：  
高崎市新町

#### ■ 整備効果

##### 整備前



当該区間は、歩道がなく歩行者が非常に危険にさらされていた  
また、当該区間の前後は完成済みであるが、本区間は1車線しかないためボトルネックとなっていた。

##### 整備後



車道を拡幅して2車線化することによって、安全でスムーズに通行できるようになった。  
歩道整備により車道と歩道が分離されたため、歩行者や自転車は安全かつ快適に通行できるようになった。

※電柱はR4に撤去される予定